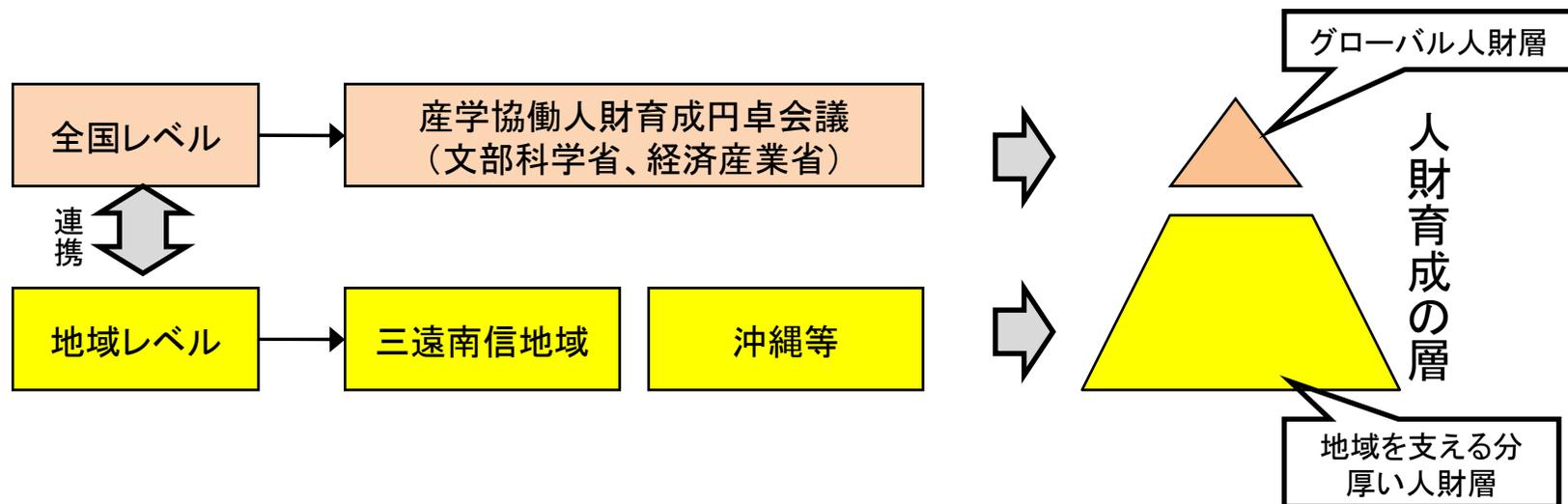


平成24年度 官民連携主体による地域づくり推進事業（資料③）
（国土交通省国土政策局委託事業）

- ①三遠南信地域産学官人財育成円卓会議**
- ②三遠南信地域大学連携検討会議**
- ③大学・経済界との人財開発セミナーの実施**
- ④パイロットプログラムの実施**

①三遠南信地域産学官人財育成円卓会議

- ・人口減少が想定される社会構造の中で、地域の持続性を確保するには、新たな価値創造の担い手となる人財の育成が最大の課題であり、産学官によって極めて戦略的に行わなければならない。
- ・こうしたことから、文部科学省においても産学協働体制による人財の育成や高等教育のあり方を探ることを目的とした「産学協働人財育成円卓会議(平成23年7月27日)」が開催されている。
- ・県境を越えた地域形成を進める三遠南信地域では、三遠南信地域連携ビジョンに沿って、地域内に立地する16大学学長による『三遠南信大学フォーラム』の設置が準備段階にあり、次代の地域を担う人財の育成について検討協議されているほか、平成23年10月24日には「三遠南信地域大学シンポジウム」が開催されている。
- ・こうした背景から前述のシンポジウムの発展形として、全16大学をコアメンバーとして、行政、産業界を加えた産学官による「三遠南信地域産学官人財育成円卓会議」を開催。



①三遠南信地域産学官人財育成円卓会議

開催日 平成25年2月1日 14:00～17:00
会場 ホテルクラウンパレス浜松 4階「芙蓉」
主催 三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA）

1. 開会
2. 挨拶 SEN A会長 鈴木浜松市長
3. 趣旨説明
(1)目的と全体像
(2)国の円卓会議の状況について
(3)三遠南信地域連携ビジョン推進会議(SENA)の取組について
4. 討議
(1)地域企業が求める人財像
(2)大学における人財育成の取組状況と課題
(3)三遠南信地域産学官人財育成の取組の方向性
5. 取組方針 SEN A会長 鈴木浜松市長
6. 閉会

三遠南信地域産学官・人財育成円卓会議 取組方針

三遠南信地域の大学の学長をはじめ、地域経済界、行政の代表者等の参加の下、産学官の連携を図りながら、三遠南信地域における「人財」の育成・定着化・確保の推進に向けた具体的なアクションを起こすために、三遠南信地域産学官人財育成円卓会議(円卓会議)を開催した。

本日の議論を踏まえ、三遠南信地域連携ビジョン推進会議(SENA)は、三遠南信地域の人財育成について次により進める。

1. SEN Aは、三遠南信地域連携ビジョンの政策の基本方針である持続発展的な産業集積の形成を目指し、人材・労働力の確保や育成、県境を越えた大学連携を推進するため、三遠南信地域の大学、経済界、行政の産学官の連携を図りながら、円卓会議等の開催など人財育成に係る環境整備を引き続き推進する。
2. 円卓会議は、企業と大学との人財マッチング情報交換会など具体的なアクションプロジェクトを検討し、三遠南信地域における「人財」の育成・定着化・確保を推進する。
3. 三遠南信地域における「人財」の育成・定着化・確保に資するプロジェクトについて、SENAは、その事業推進に向けた協力・支援を行う。

以上、これらを今後の取組方針とする。

平成25年2月1日
三遠南信地域連携ビジョン推進会議 会長 浜松市長 鈴木康友

参加者

○大学関係者

愛知大学 学長	佐藤 元彦
愛知工科大学 学長	安田 孝志
飯田女子短期大学 学長補佐	川上 恒夫
静岡大学 副学長	柳澤 正
静岡産業大学 学長	三枝 幸文
静岡文化芸術大学 学長	熊倉 功夫
静岡理工科大学 学長	荒木 信幸
豊橋創造大学 学長	伊藤 晴康
浜松大学 学長	中村 正義
浜松学院大学 地域共創センター長教授	佐藤 克昭
光産業創成大学院大学 リージョンセンター長教授	江田 英雄

○地域企業関係者

聖隷福祉事業団 理事長	山本 敏博
浜松地域イノベーション推進機構 理事長	津田 紘
イシグロ農材(株) 代表取締役社長	石黒 功
(株)サーラコーポレーション 代表取締役社長	神野 吾郎
多摩川精機(株) 代表取締役社長	萩本 範文

○地方自治体

SENA 会長 浜松市長	鈴木 康友
SENA 副会長 豊橋市長 代理 副市長	堀内 一孝
SENA 副会長 飯田市長	牧野 光朗

SENA アドバイザー 愛知大学 教授	戸田 敏行
文部科学省 高等教育局専門教育課 専門官	杉江 達也
日本有限責任監査法人	大久保和孝

現役学生を企業が受け入れるインターンシップ制度の充実や社会人を受け入れるための大学側の体制整備など、より一層の産・学の連携、地域の中小企業における学生向け就職情報の充実、学生が地域の課題を知るためのフィールドワークなどの事業の必要性を確認した。

今後も、人財育成・定着化のためのプログラムを引き続き具体的に検討していくため、産学官連携を進めるための円卓会議を継続実施する。

②三遠南信地域大学連携検討会議

次世代社会基盤創造分野における人財育成事業の推進、大学フォーラム設置の検討及び「三遠南信地域産学官人財育成円卓会議」の開催に向けた検討を行うため、三遠南信地域内の7大学の学長などにより構成したメンバーによる三遠南信地域大学連携検討会議を開催した。

(1) 第1回会議

開催日 平成24年12月6日 10:00~12:00
場 所 アクトシティ浜松コンgresセンター5階会議室
議 事 三遠南信地域産学官人財育成円卓会議の開催について

(2) 第2回会議

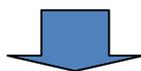
開催日 平成25年1月25日 10:00~12:00
場 所 アクトシティ浜松コンgresセンター5階会議室
議 事 三遠南信地域産学官人財育成円卓会議の開催概要と進め方について

(3) 第3回会議

開催日 平成25年2月21日 10:00~12:00
場 所 アクトシティ浜松研修交流センター36音楽セミナー室
議 事 三遠南信地域産学官人財育成円卓会議の結果について
三遠南信地域産学官人材育成円卓会議の今後の進め方について
三遠南信地域企業等アンケート調査結果について

(4) 第3回会議 主な意見等

育成していく人財像を規定していくことが必要
インターンシップについて、プロジェクトとして取組むことが必要
大学側の企業情報の拾得が未熟な状況



インターンシップの方法、人財像、企業を知る機会をベースとして今後の進め方について整理をする

三遠南信地域大学連携検討会議(敬称略)

氏 名	所 属	摘 要
佐藤 元彦	愛知大学	学長
寺嶋 一彦	豊橋技術科学大学	副学長
伊藤 晴康	豊橋創造大学	学長
柳澤 正	静岡大学	副学長
宮内 博実	静岡文化芸術大学	副学長
荒木 信幸	静岡理工科大学	学長
高松 信英	飯田女子短期大学	学長

③大学・経済界との人財開発セミナーの実施

地域企業が求めている人材（企業の人事担当者）と、大学側の人財育成の状況（大学の就職担当者）を踏まえ、地域としてどのような人財開発が必要であるのかについての情報交換の実施

(1) 第1回 平成24年11月30日 場所：豊橋市総合体育館 研修室※東三河ものづくりフェア会場

①講演：「企業・地域・教育機関が連携した人財育成」講師：ヒューマンソシア(株) 笹尾 裕子 氏

②情報交流会

- ・参加企業9社、三遠南信地域の6大学（豊橋技術科学大学、愛知工科大学、愛知大学、静岡理工科大学、静岡文化芸術大学、浜松大学）、域外の3大学、域内の2高校

(2) 第2回 平成25年1月25日 場所：アクトシティ浜松 研修交流センター会議室

①講演：「企業・地域・教育機関が連携した人財育成」講師：テムスト(株) 森 哲也氏

②情報交流会

- ・参加企業5社、三遠南信地域の4大学（静岡文化芸術大学、静岡理工科大学、浜松学院大学、愛知工科大学）、域内の1大学校

(3) 主な意見等

①企業側

- ・元気で明るく、地域のために働きたいという思いを持った人材を希望しているが、企業に対するイメージがないまま就職してくる学生もあり、数年で離職する。離職率の高まりは、人材育成コストの上昇を招くため、採用者の性格・特性等を考慮し、社内で活かせるよう再教育を行っている。
- ・インターンシップの学生をどのように対応していくべきかわからない。

②大学側

- ・企業HPだけでは企業イメージが掴めないため、工場見学・インターンシップを通し、企業の認知度を高めたいが十分ではない。インターンシップの受入企業が見つげづらい。



第1回の模様



第2回の模様

④パイロットプログラムの実施

大学生自らが「地域のことを知り・地域に関心を持つ機会」、「地域密着型ビジネス(社会的企業)を考える機会」を提供し、地域とのコミュニケーションツールを開拓しながら、地域課題の抽出、課題に対応したビジネスの検討に関するパイロットプログラムを実施した。

(1)参加者・実施日

- ①遠州地域 浜松学院大学等の学生(11人) 実施日: 11/28、12/8、12/19
- ②東三河地域 豊橋創造大学の学生(12人) 実施日: 10/20、11/10、12/15

(2)内容

- 第1回 座学・ワークショップ 三遠南信地域の実情、地域課題の発掘
- 第2回 フィールドワーク 遠州: コスモグリーン庭好(農業再生)
東三河: ゆずりは学園(不登校・引きこもり支援)
- 第3回 座学・ワークショップ 地域課題に対応した起業検討



ワークショップ 模様(豊橋創造大学)



フィールドワーク(ゆずりは学園)



ワークショップ 模様(浜松学院大学)



フィールドワーク(コスモグリーン庭好)

(3)効果

- ・ワークショップを始めて体験する学生が殆どであり、60歳過ぎの学生、外国人留学生も参加していたが、意見交換に支障は感じられなかった。
- ・一般的に報道されている情報(限界集落、商店街衰退等)は、よく知っているが、住んでいる地域の実情は、地元出身の学生でも理解されていない。
- ・ワークショップよりもフィールドワークにおいて、積極性が感じられ、実践的な現場学習への関心が高い。